

## しのばず自然観察会より 2023-10 2023.10.01

### 2023年10月の活動 不忍池 定点観察 10月15日(日)



集合：午前10時 不忍池 蓮池南西端  
緑の小旗あり（野外ステージ西側、  
湯島天神下交差点寄り）

今回は雨天中止

持物：筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具  
（マスク、敷物、昼食）

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚  
参加費不要 非会員の参加も歓迎

そろそろ冬鳥のカモ類やカモメ類が飛来し始める季節を迎えます。このごろは蓮池も動物園池もハスが繁茂していて水面のカモは見つけにくいので、ボート池のカモが目安になっています。この時期は、夏を越した羽模様が換羽しきっていないために雌雄の識別に悩まされるカモの個体が目立ちます。

### 2023年 9月10日の不忍池観察記録

9月の定例観察会は10日(日)、台風13号が去って真夏が戻って来たお天気のもと、6名の参加者がありました。時々太陽が雲間に隠れ、また涼しい風に、前月、前々月ほどの暑さは感じませんでした。

ちょうど、台東区などが主宰する青少年フェスティバル～下町っ子祭りが開かれていて、水上音楽堂から下町風俗資料館辺りまで、テントのブースが並び、多くの人出がありました。呼び込みの中学生があちらこちらで声を枯らしてお客さんを誘っていました。沿道片側の自転車の駐輪の列も、時間とともに伸びていきました。

ハスは実になった蜂巢状態が葉の海から突き出して林立、それでも数輪の花も見られました。ハスの葉の半数くらいが緑から黄色に変色し、秋の訪れを告げているかのようでした。

この日も先月と同様に動物園池のカワウがとても静かで、コロニーでは空き巣が目立ち、いる個体も数羽しか目につきませんでした。ハスの葉で覆われた蓮池や動物園池では渡りのカモの姿は見つけられず、またハスがないボート池でも、確認できた水鳥は留鳥のカルガモ、カイツブリ、コサギだけでした。

今回もアッとさせる自然の姿を見ました。下町風俗資料館から弁天堂入口への途

中で、5 cm位の黒っぽい毛虫が隊列を組んだように集団で園路を横切って歩いて行くのです。スマホ検索をした会員がシャチホコガの幼虫らしいと候補を絞りました。毛虫の歩き始めた辺りには、一枝そっくり裸になったサクラがありました。さらにその先の園路沿いには、一本丸裸になったサクラもありました。あとでネットで見ると、毛虫はモンクロシャチホコ。集団で生育し、桜などの害虫、土や落ち葉の間に潜って蛹になるとのこと。さらにびっくりしたのは、幼虫は食用になる！糞も香り付けに用いられる!!桜の葉を食べるので、幼虫の肉も糞も桜餅の香りがするとか。

### 生き物リスト (集合前、解散後の確認も含む)

鳥：カルガモ、アオサギ、コサギ、カイツブリ、カワウ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラ、コゲラ、スズメ、ドバト (坂部嗣雄)

昆虫・ほか：シオカラトンボ、アゲハ、アオスジアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ? ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ (蝶)、モンクロシャチホコ (蛾) の幼虫、アシダカグモ

魚類：コイ

植物 (花・実 草本・低木 ほとんどが外来種・導入種) : ワルナスビ、ハス、ミソハギ、ノゲシ、タカサブロウ、チチコグサモドキ、ハゼラン、コガマ、ジュズダマ、ススキ、アシ、シマスズメノヒエ、オヒシバ、メヒシバ、エノコログサ、カヤツリグサの仲間、園芸種では、タチアオイ、アベリア、桃色花のキョウチクトウ



モンクロシャチホコの幼虫



蜂巣の形になったハスの花托

**2023年 11月の不忍池定点観察会は12日(日)の予定です**

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方  
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>  
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

\*\*2022年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ\*\*

## 2023年9月10日の活動 小川千恵子

8月30日所用があり、観察会のいつものバス停で降りて、不忍池へ。8月13日の観察会の朝、集合前にボート池西側でSさんに会い、ネコジャラシ(エノコログサ)?かもネと話していた、15cmの背丈の細長い葉を見に行く。葉の長さは30~40cmになっていた。ほとんどがメヒシバで、少しオヒシバだった。

そういえば7月の観察会で、ボート池北側のイネ科の10cm足らずの葉をTKさんがオヒシバ?イヌビエ?と言っていたのを思い出した。今日は集合地に行く前にそこを見ようと一本早いバスに乗る。

バス到着9:13。ボート池北側の植え込み筏の杭にカワウ1羽、コサギ1羽、ひっくり返したボートの上にコサギ1羽。そして、気になっていた細長い葉はほとんどがメヒシバで、中に少しオヒシバとシマスズメノヒエがある。葉の長さが70~80cm以上あり、量もすごくて、葉先を下に向けて倒れこんでいた。こんなに長く育つなんて知らなかった。これはまだ伸びるのか?これからどうなっていくのか?どうか刈らないで!

池端にはたくさんの実がついたジュズダマが何株もある。シオカラトンボが飛ぶ。

池西には青いツユクサ。北側よりは背の低い20~30cmのメヒシバと少しのオヒシバ。ヤブガラシが地面を覆う。

ハンノキの真下は日陰でドクダミとヤブガラシの小さい葉が出始めている。ドバトが数羽、座りこんでいる。ソメイヨシノの樹上ではスズメが鳴き、見上げるとムクドリが1羽、少し太い枝に止まっている。コオロギらしい声がコロコロと聞こえる。池そばはエノコログサ。

メヒシバ、ヤブガラシ、少な目のオヒシバ、エノコログサがずっと続く。

ガンジン像南にもある上述の草群の中に薄いピンクのヒルガオ(あとでTKさんにコヒルガオと教わる)の花が所々に咲く。ジジジーと虫の声。何?カルガモが南から北へ飛ぶ。

カンザンの下はオヒシバ、少しドクダミ、クローバーがまだ少し咲いている。

トリ(鳥)モニュメント北はコヒルガオ50輪以上咲く。南のオオシマザクラの下にはムクドリ1羽。カンザン2本目の下はチドメグサ(?)。ヤマトシジミ2頭が足元を飛ぶ。柳下は草丈50cm以上のメヒシバ、少し背の低いエノコログサ。

石垣の北はシマスズメノヒエ。メヒシバは背高く、葉先は丸くなって下を向く。

タチアオイ。8月に1本を残して全部切られたと前号に書いたが、間違い。ピンクの花のタチアオイが20本くらい残っていて、茶色の実がほとんどで花は少し。まだ蕾もある。切られたタチアオイは遅しく、大きな葉がいっぱい伸びているが、葉は虫に喰われている。

池中の鉢のガマは葉先が茶色に変色。ピンクのミソハギは先っぽに花が残る。別の

鉢にススキ。ウスゲヤマザクラの下で、背後からオーシンツクツクの声（ツクツクボウシ）。

池南側のひっくり返したボート6艘の東から3番目のボートに大きなカメ2匹、カルガモ、大きなカメ2匹が並ぶ。この3番目のボートだけが背が低いのだと気づく。だからいつもカメがのっているんだ。カルガモ2羽が首を折るように背に入れて丸くなって浮かんでいた。

## 集合地から

まだ残って咲いていた黄色いカンナと菊の葉のところには、濃いピンクのオシロイバナの咲き終わりのしぼんだ花が見える。

蓮の濃茶のハチスが葉より上に伸びて目立ち、葉は色あせて黄色い緑に変わってきているのが印象的。アゲハ、アオスジアゲハが飛ぶ。ジジジーと虫の声。シマスズメノヒエ、ワルナスビ、ノゲシ。

音楽堂横のキョウチクトウは咲き続けている。その辺りから台東区下町子ども祭りで、至る所が駐輪場化し、沢山の小さな出店とすごい人出。すり脱けるように浮き橋の方へ。浮き橋入口のコガマの横にアメリカセンダングサと、TKさん。橋の真中辺りでTKさんが蓮の葉の中央の水が溜まっているところにブクブクと泡が出ているのを見つける。これが8月13日にKOさんに教わった空気孔と知る。全部の葉に水が溜まっているわけではないし、水が溜まっても泡が出ていないのが多い。試しに水が溜まっている葉を揺すってみると泡が出るのと出ないのがある。

「事前に申し込みをしないと参加できませんか？」とひとりの女性が声をかけて下さる。緑の旗の効果です！！もちろん参加。またご参加下さい。

人混みを避けるように下町風俗資料館辺りへ。濃い緑の4~5cmのとんがった葉群は園芸種のジャノヒゲとTKさん。チチコグサモドキ。

河津桜辺りは自転車がズラリと並ぶ。桜の下のコンクリートの道の上を、5cm位で、黒い体に黄色い毛がついた毛虫達は何匹もニョロニョロと東方に向かって這う。東側の土を求めて？土なら桜の木の下周辺にもあるのに、何故集団で東方へ？

蛾のモンクロシャチホコの幼虫。若齢幼虫は体色が紅く終齢幼虫は黒くなり、毒は無く、無害。幼虫は9月~10月頃に土に潜り、蛹で越冬し、翌年7月~8月頃に成虫になるとのこと、幼虫は食べられる。ほんのり桜の味がするらしい。食べてみたいですか？映像で見ると、成虫の蛾は白くてかわいいです。

弁天堂参道手前でコヒルガオ、2種類の虫の声。エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギらしいが、聴いて判別するのは難しい。

参道入口の橋の動物園池側にシオカラトンボ。大藤棚の南東の端にあった桜の木が切られていた。ウロにパン等を詰めてスズメが食べるのを楽しんでいる人達が集まっていた木。横に萌芽の若枝が伸びていた。その木の下によく伸びた細長い草にSAさんが雌らしい大きなショウリョウバッタを見つけ

る。8~10 cm、薄茶色で黒いシマが入っている。

MIさんが「これは何？」ときく。ワルナスビ。8月には何でも触って確かめようと思っていたのにすっかり忘れていた。TKさんに言われて触る。茎にも葉裏にもビッシリとトゲがあつて痛い。

ヘクソカズラの可愛い花。ツユクサ、蕾が粒々ピンクのハゼラン。カヤツリグサは、茎でひっぱりっこをした、とTKさんとMIさん。細長い葉だがイネ科ではなくカヤツリグサ科。



ワルナスビはトゲだらけ

弁天堂裏へ行くと頭上を北から南へアオサギが飛ぶ。弁天堂西出口の橋の動物園池側にまだ固い蕾の蓮を発見！出口を出て、北側の落羽松下の手前にオシロイバナ群。

蓮池とボート池の間を南下。

蓮池側のアキニレにシジュウカラ。ツマグロヒョウモンの雌が飛ぶ。両側にシマズメノヒエ、メヒシバ、オヒシバ。ボート池側にエノコログサ、チドメグサ？ウラジロチチコグサ？チヂミザサ、ジシバリ、次々新しい名を教えてもらうが、まだ把握できない。

ボート池西側を北上してテラスへ向かう。池側にヒメジョオン、ノゲシ。道に落ちていたと言ってSAさんが枯れ枝に巨大グモをのせている。アシダカグモ。TKさんが調べて毒無し、イエグモ、網は張らない。ゴキブリを食べてくれる、と。

○今日も毛虫やクモやコオロギ類、大きなショウリョウバッタと新しい発見。見られた昆虫の種数がふえている。

○8月13日の観察会では15 cm位だった細長い草が、30日には30~40 cmになり、多くはメヒシバとわかり、9月10日には50 cm以上になっていた。そして十分な陽光を浴び、刈られずに伸びたメヒシバ、オヒシバは70~80 cm以上と驚く程葉が長く伸びることを知った。今後、どうなっていくのか？

○桜の木に下草が少ないのは刈ったからではなく、枝葉が陽光をさえぎっているせいではないか？柳の木の下草はある。風でそよぐ枝葉に陽光がさえぎられないのではないか？

○8月13日に下町風俗資料館前の植え込みの縁に上がると池全体が見られると書いたが、弁天堂入口手前の蓮池に水が流れ込んでいる所の池縁からも西側のアシの島を除く南側が良く見えることに気づいた。しかも蓮は池北側より南側の方が背が高くなっているように見える。足元の地面が少し高くなっているのか？池の深さが南北で違うのか？それとも眼の錯覚か？